



「しいたけのホダ木づくり」行事でコナラの木を運ぶ参加者の子どもたちは元気いっぱい



写真-1 う～ん、おいしいっ！ 子どもたちは焼芋にも満足



2



3

写真-3 はざかけは里山の風物詩
写真-4 里山で集めた落葉は来季の有機肥料に



4

損保ジャパン環境財団・学生インターン制度で、「里山の生物多様性保全と資源活用・農と地域支援・自然環境学習」を活動テーマに、昨年7月から企画や学習プログラム運営などを続けてきました。フィールドは枚方市尊延寺「縄文谷」などの里山約1.5ha。住宅地にも接する場所ですが、近郊の里山やその環境は有効に資源活用されていない現状を知りました。そこで上記テーマの活動を続け、またそれらを「里山保全・農ごよみ」（仮称）にまとめようと計画しています。里山の資源を活かし、その恵みを知り享受していただくことで、一人でも多くの人とその豊かさや人間との関係性に気づいてもらうきっかけとなることを願っています。

インターンでは当初「里山保全×環境教育×まちづくり」をテーマにしましたが、岡事務局長が保全活動をしていた「縄文谷」でインターン1

期生の方が無農薬畑作に取り組まれていたため、テーマは「縄文谷」の里山・農事に合わせて再考。地権者の方はご主人が昨年亡くなられ里山・農地の維持も危ぶまれましたが、1期生の方が畑作に加えて水稻作にも取り組むことになり、地権者の了解を得て以下のテーマを設定しましたが、水田・畑や農事の支援、それらの生態系サービスを含めた里山保全活動を進め、今後のモデルにしていこうというねらいです。

取り組みテーマの骨子

- ①水田・田畑を含む里山の維持保全
- ②生態系サービスの活用
- ③無農薬の農事支援
- ④自然環境学習
- ⑤①～④をもとに「里山保全・農ごよみ」の出版

インターン期間に実際行った活動

○稲刈りとはざかけ…ぬかるみの稲を手刈した後、竹でやぐらを組み、束ねた稲を干す作業を経験。慣行農法では機械で脱穀までして乾燥機で急速に乾燥。組織が壊れ、味、栄養価も落ちてしまうそうです。化石燃料を消費し環境にも影響を及ぼすことになります。天日干しすることは昔ながらの「エコ」な乾燥方法だったのです。

○落葉集め…来季の畑田に使用される落葉を収集する作業。広葉樹の落葉を堆肥にして有機肥料として利用することは昔から農業の現場で当たり前に行われていました。しかし化学肥料が普及した今、落葉は燃えるごみとして処分されています。落葉は燃やさず堆肥にし、必要とされる場所で土に返すのが理想的なのです。

○「しいたけのホダ木作り&焼き芋体験」イベントの開催…しいたけや

芋など人間は里山の生態系サービスを享受してきたという里山と人の関係性を実感してもらう機会を提供しました。ホダ木にはコナラ、焼き芋には竹を使用し、里山整備という観点も盛り込みました。参加は地域の小学生など計40名でした。

活動内容&「里山保全・農ごよみ」の掲載項目（仮メニュー：以下から選択）

- 1章・春
 - 3月＝種選び 発芽
 - 4月＝育苗て あぜぬり 田起こし 代かき
 - 5月＝田植え 水量調節
- 2章・夏
 - 6月＝水管理 稲の面倒 草とり みぞ切り
 - 7月＝中干し イネの花
 - 8月＝稲穂 水抜き
- 3章・秋
 - 9月＝稲刈り
 - 10月＝はざかけ 乾燥稲脱穀

- もみすり 精米
- 11月＝土づくり等
- 翌年の田んぼの準備
- 4章・冬
 - 12月～2月＝生物による有機物分解：土づくり 落葉集め わら細工 シイタケほだ木づくり かいぼり など

終わりに

多くの人々は、自然というものは、無償で、壊れることが無く、無限に利用できると思っていました。しかし、人類による酷使の影響は、絶えず明らかになってきており、そのための対策や活動も徐々に活発になってきています。

「愛知目標」の達成に向け、「生物多様性保全」という言葉は今後さらに盛り上がりを見せていくことも期待されます。自然の恵みを持続可能な方法で利用し、自然と人間が共生する社会の形成に少しでも役立てるように活動していきたいと思いました。